

第三百十八話 ビルマ攻略作戦に思う！

かつての敵国同士の歴史的和解は極めて困難である。日米は硫黄島で合同慰霊・追悼式を24回（2023年）続けており、また最近では日英和解の動きがニュースとなった。小生も参列した日英合同慰霊祭（千鳥ヶ淵戦没者墓苑 2023/10/9）と日英元兵士の和解の握手（<https://www.sankei.com/article/20231012-3ZAFDHXZOF2L2HAKZRF3ZB7AGXY/>）である。大東亜戦争における日英の主要な戦いは、ビルマ攻略作戦、インド洋での作戦、マレー沖海戦やシンガポール攻略等である。

ビルマにおける作戦を概観して、幾つかの所見を述べたい。

1 当初計画に無かったビルマ攻略作戦そして無謀な作戦の代表とされるインパール作戦

ビルマ攻略は当初計画にはなかったが、南方作戦の見極めがつき兵力運用の余裕ができたので、昭和17年1月半ば15軍をビルマに進攻させた。日本軍は5月半ばには全ビルマを制圧した。当初はマレー作戦の側面援護が主たる狙いであったが、援蒋ルート

の遮断を狙いとし次には、連合軍の反攻阻止をも狙って、戦面は全ビルマに拡大した。更に援蒋空輸ルート遮断へと目的を拡大し、インド北東部への進攻を計画（二十一号作戦）を策定した。

次第に連合軍の反攻が強化されたので、15軍（牟田口中将）は反攻の機先を制すべくインパール攻略を愚行し、南方軍も大本営も最終的には支持した。在り得べからざる師団長の坑命・更迭があり、白骨街道とも呼ばれた。



2 援蒋ルート遮断等とビルマ作戦

順調な初期作戦が作戦目的を拡大させた嫌いがある。また、縁蒋ルートの遮断との目的達成のために戦面拡大・無謀作戦の遂行となったが、慎重な作戦実施が必要ではないか？いずれにしても支那問題を解決せずして対米英蘭戦を開始した付けが来た。

3 南機関等の活動と戦争目的

南機関（鈴木大佐）は、反英独立運動を支援していた。ビルマ攻略作戦では、南機関が指導したビルマ独立義勇軍が日本軍と共に戦った。ビルマの独立について、大本営、15軍および南機関は早期独立論だったが、南方軍だけは反対であったようだ。何故南方軍は戦争の大目的を理解していなかったのか？本事例だけではないが、作戦全般を通じて南方軍とは何だったのかを考えてしまう。高等将帥に問題はなかったのか？

4 日本の軍政

ビルマは1943年8月独立したものの、実質的な権限移譲が遅れ、義勇軍は遂に連合軍に協力するなど反日的活動が激しくなった。何とも稚拙な軍政・独立支援だ。

5 加藤隼戦闘隊、埜孟・騰越守備隊の獅子奮迅の戦い

空の軍神加藤健夫中佐（飛行64戦隊長）は愛機隼が撃墜されたが、機密保持のため機体と共に海中に突っ込んだ。同中佐の個人感状受賞は、8回に上る。

一方、歩兵部隊も20数倍から30倍に上る中国軍の猛攻に堪えたが、遂には両部隊共に玉砕した。（メモランダム47話参照）他にも兵の奮戦事例は多々あり。

6 ビルマ戦を題材とした小説や映画等

竹山道雄「ビルマの豎琴」、会田雄次「アーロン収容所」、「戦場にかける橋」等ビルマの豎琴は、英印軍に包囲された日本軍が埜生の宿を歌い、これに呼応して英語で「ホーム・スイート・ホーム」を歌うという感動的な話だ。（創作とのこと）

7 スティルウエル中将の献策が認められていたら蒋介石軍が共産軍に敗れることは無かつたろうとの話もあり、世界地図が変わっていたかもしれない。

* 初期作戦後の海軍の作戦目的拡大を非難したが、陸軍も同類だし、軍政も稚拙。

（了）